創立25周年記念事業の成果報告

OR年表／記念出版／長期計画

1. OR学会史について

「OR年表」ができあがりました．当学会の創立25周年記念事業のひとつとして「OR史の編纂」がとりあげられ，現会長の横山勝義委員長を中心にして，昨年の秋季大会以後，企画・編集の活動を開始しました．学会の有力メンバーの方々に集まっていただき，意見をうかがったりしました結果，「OR年表」を作成することになったものです．

年表のサイズはB1版の紙を縦に半切した横長のもので，年表部には1950年から1982年までのできごとが一覧できるようになっています．一部カラーの多色刷りで美しいものになりました．内容としましては，歴代会長，研究発表会開催場所，シンポジウムのテーマ，学会誌と論文誌の変遷，大西賞，文献賞，普及賞，実施賞，事例研究奨励賞の受賞者，講演会，講習会，受託研究，支部の発足，事務局の移転，海外視察団派遣，会員数推移，IFORS 開催地と歴代会長，その他国内外におけるORに関連する活動やできごと，それにOR手法の発展を物語る各種の問題や手法の研究の歴史，また当時の世相を思い出させる社会的トピックスなど総計 330余の項目が盛り込まれております．

年表とひと口に申しましても，歴史の教科書に折り込まれた年表，企業などの宣伝用の年表，昨年の IFORS の帰路にロンドンの科学博物館でお土産にといって柳井浩氏が買ってこられたコンピュータの年表，さらに内容といい規模といい，大作で知られるIBM社製の近代数学者の年表などいろいろですが，すべて参考にさせていただきました．また，1975年に発行された「OR事典」の付録に，学会活動の資料，国内外におけるOR活動の資料などが要領よくまとめられています．これにその後の資料を追加し年表の原稿を作成しました．

こうやって年表の形にして学会の活動を眺めてみますと，その年に何があったか，また，特定のできごとの時系列的な流れの様子がよくわかります．いまさらながらマトリックスの偉力にはびっくりさせられます．25周年記念としての年表作成の企画は大成功だったといえるでしょう．年表作成の作業の段階では，盛り込む内容や構成，さらに収集できる資料との整合性などいろいろ問題点がでてきて何度も行き詰りがありましたが，一応何とか形がつきました．

会員の諸兄にはぜひ一部お備えいただき，部屋の壁に貼っておいてください．価格は一部500円(非会員は1000円）です．研究発表会でも販売いたしますが，郵送も考えておりますので事務局に申込み願います．

完成品になってみますと，満足のいかない点や不備な点に気づかないわけではありません．すでに，英語版を早く作れとか，手法を体系だてて充実させてほしいとか（これには2年ほどの年月をかけなければなりませんが）いった要望がでております．今後の事業計画で考えてゆきたいと思っております．皆様がこの年表を手にされて気がついた間違いやご意見がございましたら，正誤表や今後のための資料として利用させていただきたいと思いますので，事務局にご一報くだされば幸いです．

2. 記念出版について

第二次世界大戦とともに孤々の声をあげたオペレーションズ・リサーチも戦後急速に成長し，理論に，また実践にと，めざましい発展をとげてきました．この間，世界は大きく変わり，日本は敗戦より立ち直って世界の先進国に肩をならべて，一歩もひけを取らぬ経済大国となりました．

講和条約後，数年にして発足した日本オペレーションズ・リサーチ学会は早くも四半世紀を経過し，日本の復興にもORは陰に陽に役立ったことと思われます．この25年間の日本におけるORの歩みについて，学会としてオーソライズされたものの1つに文献賞があります．

この文献賞は，第2代会長故大西氏の寄金により大西記念文献賞として設立され，その後法人化とともに大西氏の遺志を尊重し，学会文献賞として継続されているこ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

とは会員各位もご承知のことと存じます.

今回25周年を記念して各種の行事が企画された中で，過去の日本におけるORの歩みを顧みる一助として受賞論文を集録し，編集しなおしました．これらの論文より四半世紀にわたる日本のORの進歩を如実に感じ取ることができますし，いまこれらの論文を再読してみると，決して外国の論文に比して劣っておらず，日本におけるORの水準の高さを思わせます．この論文集には受賞論文のほかに，論文を書いた動機，その背景および受賞後のその分野における研究の進展状況について受賞者各位が筆をとっておられますが，これは今後，この分野を研究される方々の有力な一里塚となるものと存じます．また伊理正夫氏（東京大学）の司会のもとで，受賞者を代表する数名の方による“理論の進化とともに現場への適用を望む”と題した座談会を開催し，その概要も掲載しました．これは受賞者の方々が単なる理論のみならず，それをいかにして現実の場に適用するかということを真剣に考えておられる態度がはっきり示されており，今後日本におけるORに大いに役立つと思われます．受賞者各位が理論とともに実践に意欲をもっておられることを知り，ORに対して明るい希望を懐くのは編集グループだけではないと信じます．ORの先達である米国においても“ORの中年の危機”ということが言われていますが，日本においてはこれらの受賞者の意気により，この危機は充分突破し得るでしょう．

25周年記念として編集したこの論文集は，過去の受賞論文の集大成のみならず，ORにたずさわるORマンの必読書として，会員各位が熟読されることを願って止みません．

3. 長期計画について

本学会創立25周年記念事業の3本柱の1つとして，学会の長期計画作りがとりあげられ，特設の委員会による半年余りの作業を経て，このたび「OR学会の進むべき方向」と題する答申書にまとめられました．

この答申書は，去る9月16日の創立記念式典で，参会者に配布披露されました．また一方，理事会では今後の学会の運営に，この提言をどう反映させるか，具体的検討が進められております．

今回の答申の内容について，学会員各位にご理解いただき，会員1人1人がご自分の問題として受けとめ，学会への参画意識を燃え立たせていただくことは，学会の活性化のために重要なことであります．

そこで，本学会誌11月号に，その全文を紹介いたします．皆様からの建設的なご助言・反響を期待します．

本号では，まず委員長の巻頭言を掲載いたします．

*　　*　　*

日本オペレーションズ・リサーチ（OR）学会の創立25周年を機会に，多数の会員の貢献を得て，学会の長期計画——OR学会の進むべき方向——を世に問うことができるのは，まことに喜ばしいことである．

考えてみると，「計画と管理の科学」であるORの学会に，これまで長期計画がなかったのは，まさに“紺屋の白袴”の感がある．したがって，学会のシルヴァー・アニヴァーサリーを記念して，その長期計画を持とうという企画が持ち上ったのも，蓋し当然の成行きである．

もともと長期計画というのは，たとえば5年先の将来像を描いてみて，それを実現するために，現時点で何をなすべきか，あるいは，今立っている所からどの方向に向かって歩みを進めるべきか，をさぐる試みである．そこで，そうした計画の前提として，われわれはまず現状の分析と評価から始めた．そのさい，委員の間での討議に加えて，先年行なわれた会員に対するアンケート調査の結果や，学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」や学会活動全般についてのモニターのご意見が大いに参考になった．

ついで，学会の将来像を想定したうえで，それに向けての提言をまとめるに当っては，委員が手分けをして，ORの学識経験者や実務家のインタビューを行ない，その結果の上に立って，委員間の度重なる討議によった．

こうしたプロセスから分かるように，この長期計画にはできるだけ多数の会員の声を反映させることに努めた．十数回におよぶ討議を重ねられた委員の方がたのご苦労に満腔の感謝を捧げるとともに，時間の制約あるいは紙面の都合で会員の声すべてを盛り込むわけにはゆかなかったので，この長期計画を“叩き台”と考えて，いろいろのご意見を寄せてくださるよう，全会員にお願いしたい．

時代の進歩と社会の変化とのテンポの速さから見て，この長期計画もすぐに古くなることは必定である．2年（会長の任期）ごとぐらいに，見直しと改訂が行なわれて，さらに多くの会員の声を基盤とする新しい長期計画がつぎつぎと生まれて，学会の進むべき道を照らす松明となることを心から希うものである．

長期計画委員会
委員長　松　田　武　彦

頒布価格（送料別）

	会　員	非会員
OR年表	500円	1000円
日本OR学会文献賞受賞論文集	2400円	4000円

申込み先：学会事務局

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．